

【研修報告】 『花におけるカラーコーディネート Part2 色の配分』

日 時：平成23年9月1日（木）午後1時30分～3時30分

会 場：下落合コミュニティーセンター 4階

講 師：間室みどり（カラーリストスクール・ワム・I.C.I.認定講師、GA、
ハンギングマスター）

参加者：25名（GA16名、一般参加者9名）

昨年11月に開催された研修会が非常に好評であったため、Part2が開催されました。人は6秒で第一印象が決まるようですが、そのうち色の要素が第一であるとのこと。

色の3要素（色相、明度、彩度）など前回講義の復習の説明があり、配布された資料の色調（トーン）のグラフに、199色の配色カードから指定された色紙を探して切り取り、明度、彩度を示した図表に貼り付ける作業をし、色の微妙な違いを実感させられました。

米国から来た色の分類システムのアンダートーンとは、身の回りに溢れているすべての色は、ブルーアンダートーンとイエローアンダートーンに分けることができ、同じグループの色は調和し自然なイメージを演出しやすいというものです。

色の配分で重要なのは、アクセントカラーの配置で、その面積比は「ベースカラー70%、アソートカラー25%、アクセントカラー5%」の目安が望ましく、アクセントカラーを何処に配置するかも全体の印象が大きく変わってしまうとのこと。

某種苗メーカーのカレンダー写真を参考にして、微妙な色使いや配置などで構成されている様子を具体的に説明され非常に参考になりました。

アンダートーンの見極めは、日々の景色の色にチョット気を付けて、どちらのグループに属するか意識して楽しんでほしいと！

この講座で、身の回りに溢れている色について目からウロコの内容で、今後の園芸作業やファッションなどに幅広く応用できると思いました。

今後の人生が、少しでも豊かになるよう色に、いろ・イロと気を付けてみようと思いました。

（記事：池田文明）